



鉄道事故分析集

雪による鉄道事故の防止に向けて

1.はじめに	1
2.雪及び融雪による事故等の発生状況	2
コラム 降積雪時の鉄道運転事故防止等の対策について	5
3.着目した事故等の特徴と調査事例	6
コラム 「計画運休」について	16
4.まとめ	17

1. はじめに

鉄軌道路線は全国各地に張り巡らされており、様々な気象状況下でも欠かせない移動手段として利用されています。降積雪時には、路線の特徴に応じて除雪等の必要な体制がとられ、近年では計画運休も実施されています。

平成13年10月以降、旧航空・鉄道事故調査委員会及び運輸安全委員会が調査対象とした鉄道事故及び重大インシデント（以下「事故等」という。）について、令和6年3月までに、事故等調査報告書を404件公表しました。このうち、雪及び融雪を要因とした事故等は34件で、寒候年（前年8月1日から当年7月31日までの期間）別の発生件数としては各地域で記録的、またはそれに準ずる大雪に見舞われた際に事故等の件数が増加する傾向があり、また平素は雪の多くない地域でも同様の状況で事故等が発生しました。

これら事故等調査報告書の中には、ヒューマンファクターや組織的要因について指摘している記述もあり、雪というまれな事態への個人又は組織としての対応が十分でなかったことが示されています。

本ダイジェストは雪による事故等の防止に資することを目的とし、雪による事故等の発生状況の分類や特徴、ヒューマンファクターや組織的要因、個別の事故等調査報告事例による具体的な対策等を紹介します。本号を、降積雪時の事故等の態様の把握や、各路線の体制検討の際などにご活用いただければ幸いです。



左写真は、除雪されていない線路（踏切道）を列車から見た様子。写真の左側から中央に向かって道路上の積雪に自動車等が通ったわだちが見られる。（鉄道事故調査報告書より）
右写真は、雪の積もっていない踏切道を道路から見た様子。